

札
嶋
亭
子
大
世
学
动
物
学
教
室

八
田
三
郎
様

信
史



三月



十日

〆

大阪市西區南堀江通壹丁目

勝本鼎一

相成、始、予為し、ら
るゝし、た。暑、い、の、で

是、物、は、又、こ、こ、し、し、よ、う

行、に、し、ら、る、し、た。

又、松、浦、探、す、と、腰

痛、し、の、こ、こ、し、し、た、在、宅

お、目、に、こ、こ、し、し、た、古、果、は、た。

奥、探、り、し、し、た、中、の、し、

お、肩、の、こ、こ、し、し、た。

也、余、で、書、し、た、を、清、し、し、

将、を、探、し、し、た、其、の、

折、ま、し、し、た、在、宅、し、し、

非、常、に、し、し、た、思、

将也様（口三）の御書

折よくお送り在宛まで

非常にお款結に与り思

はがあらざり夕方お返

お礼願ひしました。

お幸儀の事へも申し是

ら西表の村へお参りし

下さい。

可致よりお返事へお返し

ま

六月十日

鼎一

仁子

八田お父様

トハ。

可敬より直筆中へおび

ま

六月十日

鼎一

仁子

八田守父上様

膝下

二体

此の書は海防にまつて

手紙に清水健の由何より

河内守家へ有る

十二 札幌山口兵一氏より

三ノ 其の島居藤雄氏より

十包よりそれは伊親より

何れも其の書初めはとてお廻

し頂てより山口氏とは多々又

の山は七ノ書初めをよみ下

二律

さかたを山と海情かしまし

手紙一法水徳の由何より

河内生家一有 三行

十と 杉櫨 山口兵一氏より

三下 其と 島兵衛雄持より

十包より 其れは 伊紀より

何より 其れを 杉櫨より 其れは 伊紀より

一頂より 其れは 山口氏より 其れは 伊紀より

の山口より 其れは 杉櫨より 其れは 伊紀より

何より 其れを 杉櫨より 其れは 伊紀より

杉櫨より 其れは 伊紀より

杉櫨より 其れは 伊紀より

りりり 送て 頂け 其れは 伊紀より

及又 其れは 杉櫨より 其れは 伊紀より

より 其れは 杉櫨より 其れは 伊紀より

叶似 不 叶 杉櫨 一 何れは 伊紀より

新と 杉櫨より

一 何れは 伊紀より

何れは 伊紀より